

北部の医療体制の充実に
向けて頑張ろう！



北部地区医師会病院 院長
諸喜田 林 先生

Q1. 北部地区医師会病院 院長として就任され、約2年近くが経ちますが、これまでを振り返っての感想と、今後の抱負をお聞かせください。

振り返ると、あっという間でしたが、荒波の中で過ぎ去った、大変濃い2年であったと思います。もちろん、そう感じたのは、私だけではなく、病院職員、医師会の理事を始めとする会員の先生方も同様であったと思います。おかげさまで病院も少し落ち着きを取り戻してきていますが、当時は突然の人事でしたので、十分なプランを練る時間も無いまま、次から次へと押し寄せる難題にただひたすら追われていたようにも思います。

北部地区医師会病院は、入院病床数236床、職員数500名を越える大企業です。北部にこれだけの人員規模を抱える民間企業は他にありません。その舵取りをするわけですから毎日が緊張の連続でした。まだまだやることが山積していますが、おかげさまで病院運営も軌道に乗り出しています。それに協力していただいた職員、医師会員のみならず、病院を影で支えていただいた多くの皆さんに対する感謝の気持ちを忘れてはいけないと思っています。今後の抱負としては、私自身やんばる出身ということもありますが、北部全体の医療を視野に入れていきたいと

思います。医師会病院を発展させることはもちろん大事なことです。地域の中核病院である県立北部病院と連携を深めていくことがとても重要であると考えています。2年前から、北部福祉保健所と県立北部病院そして医師会、当院のトップが集まる意見交換会も毎月行っており、みんなで北部の医療を考えようという機運が高まっていると思います。今後は、行政ともリンクしてさらに発展していくと思います。

Q2. 北部地区医師会病院は、「地域医療支援病院」、さらに北部循環器センター（仮称）設立予定と北部の中核病院として大きな役割を担っておられますが、北部の地域医療に対する先生の構想をお聞かせいただけますでしょうか。また、新設される北部循環器センター（仮称）の概要について、お答えいただける範囲でお聞かせください。

広域な面積に10万強の人口を持つ北部ですが、急性期病院は名護市内に県立北部病院と北部地区医師会病院の二箇所のみであり、地域医療の崩壊を防ぐ重要な任務を担っていると認識しております。北部地区医師会病院では、病院診療のみならず、健診部門を広くカバーしており、その一翼も担っております。生活習慣病の疾病予防や健診受診者の視点に立った工夫を凝ら

し、独自の健康管理サービスの確立が必要であると考えています。そうしたことから私たち地域にとってかけがえのない存在であることは間違いありません。医師会病院の健全経営の維持に努めながら、職員の質の向上に取り組み、ひいてはこれが患者さんの満足にもつながると考えております。また、かねてより準備を進めていました心臓血管センターも4月5日より開院いたします。循環器系部門において、北部地区は中南部に比し、死亡率が高く、これは一刻を争う循環器系疾患を中南部に搬送するのに時間がかかるからでもあり、当院は平成18年10月に心臓血管外科を開設し、循環器内科と協力し合い、定期手術の他にも緊急症例にも対応し、北部の住民が安心して暮らせるよう取り組んでおります。

Q3. 北部地区は特殊な環境にあり、他地区よりも医師・看護師確保等が難しいと考えられますが、これらの困難な問題への取り組みについてお聞かせください。

医師・看護師の確保は恒常的な課題です。看護師については北部地区医師会が運営する北部看護学校がありますが、学生は県内中南部や県外出身者といった方も多く、卒業後の進路は地元に戻りたいという傾向があります。このため医師会病院に多くの看護師の就職が約束されている訳ではなく、それでも定期的な確保が見込めるため、自前の学校の存在が成果を幾分挙げています。また、新たな取り組みとしては、「奨学金制度」の内容を改正して施行を始めた所です。

医師の確保については、一朝一夕では解決されないものであり、採用にも慎重姿勢を敷くことも大切な要素だと思います。そして、地道な医師確保活動を続けながら、医療スタッフ間の信頼関係を大切にする病院体制を築くことも、肝要であると思っています。

Q4. 昨年の健保組合のデータで沖縄の健康問題の危機的状況が浮き彫りになりましたが、北部地区の健康問題についてご意見を願います。

健康問題に関しては、北部に限らず、沖縄県全体が厳しい状況になっていると思います。北部地区でも、医師会と保健所が中心となり、北部地区医療連携委員会を立ち上げました。その中に糖尿病やCKDなどの連携パス委員会を機能させて、疾病予防や治療の標準化に取り組んでいます。しかし、病気が起こる前の生活習慣に対する取り組みがもっと重要であると思いますので、検診をうまく活用してそのような啓蒙活動を行っていききたいと思います。

Q5. 本会または日本医師会へのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせ下さい。

いつも大変お世話になり感謝いたしております。

県内の郡市区医師会の中で唯一医師会が運営している病院です。県医師会には当院が地域における役割の重要性をご理解いただき、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Q6. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

以前はゴルフをよくしていましたが、最近は短時間でできるテニスをする事が多いです。また、好きな言葉は、一心精進です。これからも地域医療のために精進していききたいと思います。

この度は、インタビューへご回答いただき、誠にありがとうございました。

インタビューアー：広報委員 石川 清和